（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぱんんはうすさくら岩槻教室			
○保護者評価実施期間	2025年11月30日	～	2025年12月16日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	57	（回答者数）	36
○従業者評価実施期間	2025年11月30日	～	2025年12月16日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	22	（回答者数）	22
○事業者向け自己評価表作成日	2025年12月16日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	集団活動と個別活動をバランスよく取り入れ、子ども一人ひとりに応じた支援を行っている	毎日異なる集団活動を設定し、子どもたちが集団の中でさまざまな刺激を受けながら、周囲に合わせて行動する経験や、気持ちや行動の切り替えを身につけられるよう支援しています。また、集団活動だけでなく、子ども一人ひとりの特性やその時の状態に応じた1対1の個別支援も併せて行っています。	同じお子さんであっても、成長や状況の変化に応じて必要な支援内容は変わっていくため、これまでの取組を継続するだけでなく、日々の様子を丁寧に捉えながら支援内容の見直しや改善を重ねていきたいと考えています。
2	さまざまな資格や経験をもつ職員が連携し、チームとして支援にあたる体制が整っている	保育士教員、社会福祉士、理学療法士、心理士など、幅広い資格をもつ職員が在籍しており、学校保育園・児童成人施設・医療機関など、さまざまな現場経験を活かした支援を行っています。子どもの支援に明確な正解がない中で、多様な経験や価値観をもつ職員同士が日々意見を出し合い、協力しながら一人ひとりのお子さんに合った支援を検討実践しています。	職員が多数在籍している強みを活かしつつも、支援の方針や考え方にばらつきが出ないよう、共通理解を深める取組を継続していきたいと考えています。今後も、職員間の情報共有や現場でのすり合わせを丁寧に行い、足並みをそろえた支援が実践できる体制づくりに努めていきます。
3	多様な活動やイベントを企画・実施し、子どもたちが幅広い経験を積める機会を提供している	5領域をまんべんなく支援することを基本としつつ、その時々に在籍しているお子さんの状況や特性に合わせて、毎月職員でアイデアを出し合い、活動内容が固定化しないよう工夫しています。子どもたちが新鮮な気持ちで楽しみながら参加できることを大切にし、成長の大切な時期にさまざまな経験を積めるよう支援しています。	外出を伴うイベントは特に好評であるため、日常の活動に加えて、たまにのお楽しみとなる大きなイベントについても、無理のない形で継続して実施できるよう検討していきたいと考えています。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流の機会が少ない	保育園や幼稚園に通所していないお子さんについては、地域の同年代の子どもたちと関わる機会が限られている状況があります。職員同士の地域とのつながりはあるものの、子どもを伴っての交流の機会は十分に確保できていない現状があります	児童館や地域の公園への外出を通して交流の機会を設けています。また、放課後等デイサービスでは、スーパーやコンビニでの買い物体験など、地域の中での経験を取り入れています。今後も、お子さん一人ひとりの発達段階やニーズに合わせた形で、無理のない地域交流のあり方を検討していきたいと考えています。
2	保護者同士がつながることのできる場が十分に確保できていない	児童発達支援と放課後等デイサービスを併設している事業所として、特に就学時に「同じ立場の保護者同士で悩みを共有し、相談したい」という声を多くいただいています。 一方で、平日に保護者会を開催することは、各ご家庭の都合を合わせる難しさもあると感じています。。	全体での集まりに限らず、見学や個別の関わりの場を通して、保護者同士や事業所とのつながりが生まれやすい環境づくりを行っていきたいと考えています。参加のハードルを下げ、無理なく関われる「開かれた場」となるよう工夫を続けていきます。
3	職員育成や研修体制について、さらなる充実が求められている	保護者様や学校・保育園などから、対応が難しい事例について意見を求められることが多くあります。支援には明確な正解がないため、困難な事例に向き合う中で、職員自身が悩む場面も少なくありません。	職員が一人で抱え込まず、チームで支援にあたれるよう、情報共有の場や会議の時間を十分に確保しています。また、さまざまな資格や経験をもつ職員が在籍している強みを活かし、それぞれの知識や技術を共有していきたいと考えています。今後も外部研修へ積極的に参加し、日々の療育を振り返りながら、職員一人ひとりの専門性向上に努めていきます。